

# 学びのアシスト活動におけるEメール活用相談の実践と評価

—大学生による学級担任支援活動の円滑な推進をめざして—

本多 信昭・黒羽 正見・田尻 信壹・松本 謙一

## Practice and Evaluation of Counseling via E-mails in “Manabi-no-Assist” Program

—For the Promotion of Students’ Activity as Teaching Assistant—

Nobuaki HONDA, Masami KUROHA, Shin-ichi TAJIRI and Ken-ichi MATSUMOTO

人間関係等で悩みを抱える学生をサポートしようと、各地でインターネットを活用する取り組みが始まった。富山大学人間発達科学部では2006年度より開講の「学級担任論」で体系的な取り組みを進めている。Eメール活用相談は、大学を離れ配置校で学級担任支援活動を進める学生のために実施した。果たしてこのメールによる相談は教育的に機能しているのだろうか。本研究では、①数回のアンケートで統計的有意差を持つ項目からメール相談の効果を探り、②メール文のカテゴリー分析で、メール文内容の方向性や活動の深化を探究した。その結果、教師の経験と勘から把握していたことを上回る成果を実証し、さらにメール活用相談改善のための指針を見いだすことができた。

**キーワード** : Eメール, 教育相談, カテゴリー分析, 教育評価, 学級担任支援活動

**Keywords** : e-mail, education consulting, category analysis, educational evaluation, supporting activity for a class teacher

### はじめに

「学びのアシスト」は、富山県及び市町村教育委員会と富山大学人間発達科学部が連携・協力し、教員志望の大学生を県内小・中学校に配置し、担任教師の補助的な活動を通して学校教育の充実を図るとともに、教員志望大学生の資質・能力等の向上を図ることにより教員養成機能の充実を旨とするものである。具体的には、放課後等における児童生徒の個別指導、授業や教材作成の補助及び教室環境づくりなど児童生徒の学習活動に係る補助的な活動を同一校において1年間継続して行う。この事業は、平成18年度より全国に先駆けて発足した。

本事業は、講座「学級担任論」の主要部分である。大学では4月中旬より～6月中旬まで7時間の授業を通して配置校での活動について学び、その後、各配置校でのフィールドワークについて約1年間活動する(表1)。しかし、対象となる学生が主に1年次学生で入学後まもなく、社会的に未成熟であることから生じる問題(対子ども、対保護者、対教師・学校、対教育委員会)が予想される。このような問題の予防と早急な対処のために定期的な全体連絡会(8月末、10月末、1月末、3月始)とEメール活用相談を計画した。指導の総てを配置校にゆだねるだけでなく、学生派遣の主体である大学としてもアシスト活動をする学生の状態を把握し適切に指導することをめざしている。

表1 平成19年度 学びのアシスト活動の流れ

4月11日	オリエンテーション
4月18日 ～ 6月5日	「学級経営の原理と方法」等、配置校でのフィールドワーク準備の講義を担当教官が7時間(90分授業)実施
6月13日	「各学校へ学びのアシストとして入る場合の心得」県教育委員会担当者の指導講話
6月20日	「フィールドワークオリエンテーション」各学校担当者との交流、全体指導
6月27日	配置校でのフィールドワーク開始
7月1日 ～7日	麻疹伝染防止のため、学びのアシストのフィールドワーク中断期間
8月31日	中間報告会1(アンケート、意見交換)
10月31日	中間報告会2(アンケート、意見交換)
1月30日	中間報告会3(アンケート、意見交換)
3月5日	フィールドワークのまとめ 実習記録簿・出席簿の提出等
3月31日	レポート集完成

教職をめざす学生たちは、この「学級担任論」で2年次以降の教育実習に先駆けて、子どもたちと接することを学ぶ。教育指導や教育技術技法ではない。その前提となる教師と児童生徒等の人間関係の大切さを学ぶのである。教育的にはまだ未熟であろう若者たちが、児童生徒集団の中に入り活動する中で、積極性や努力等の大切さを学び、教師の卵として成長できるよう支援することに大きく関わるEメール相談でありたい。

## I. 実践上の問題とメール相談・アンケート

### 1. 緊急事態発生時のメール相談

6月末日、大学生に麻疹感染の可能性が浮上。伝染防止ためフィールドワーク中止を指示する緊急連絡を一斉メールにより送信したが、活動を心配する学生からの問い合わせなど、学生から多数のメールが届いた。

#### 緊急時のメール交換事例

##### ◇ 2007年6月29日 22:29 学生からの問い合わせメール

五福キャンパスで麻疹発生のため4日まで休講になったと掲示板で見ました。学びのアシストはどうなるのですか？

・大学掲示の情報を見て、学びのアシスト活動の可否を心配するメールが10通余り届いた。

##### 2007年6月30日 10:20 一斉送信連絡メール 1 麻疹伝染防止のための活動計画変更について

・一斉連絡のメール作成は、県教育委員会との連絡調整も必要であり、一日遅れの送信となった。

##### ◇ 2007年6月30日 10:25 学生からの報告メール

緊急連絡メール、受信致しました。残念です…  
9月からの活動を、楽しみにしています。

・当初は最悪の事態を予想し、一学期中は活動中止と連絡した。残念という気持ちが多数寄せられた。

##### ◇ 2007年7月4日 10:42 問い合わせメール

おはようございます。今回の〇〇学部の学生さんはハシカの疑いが低かったと聞きました。ハシカが感染する危険がなくなったのですが、それでも学びのアシストはしばらく中止でしょうか？

・学部掲示からの新情報を確認した学生は、早速、活動したい気持ちをメールで伝えてきた。

##### 2007年7月4日 11:36 一斉送信連絡メール 2 活動再開のお知らせと今後の対処について

##### ◇ 2007年7月4日 11:43 学生からの受信確認メール

メール届きました。安心しました。

8日から再開される活動の内容は自分で連絡しなくてはいけないのですか。

##### ◇ 2007年7月4日 12:10 学生からの受信確認メール

わかりました。再開されることになってよかったです。次の活動に間に合うかわかりませんが、一応はしかワクチンの予約もしました。これからまた健康管理も含めてしっかり頑張っていきたいです。

騒動終了後：麻疹感染は無いと判明し、7月8日より活動は再開の一斉メールを送信した。「受信した」という簡単な返信ばかりでなく、学生たちの気持ち・意欲が感じられる返信が相次いだ。緊急事態に対して、学生たちからの思いを受信し適切な情報を送信するツールとしてEメールは大いに偉力を発揮した。しかし、この後学生たちに、「メールは問題が生じたときに活用するもの」という意識を植えつけてしまった。

## 2. 指導を必要とする学生の発見とメール相談

### (1) アンケートからの発見

8月31日、第1回全体報告会でアンケートを実施した。アンケートは自由記述、受講理由、配置校活動回数、補助的活動参加、活動の満足度、人間関係、メール相談、教員志望の8部門からなる。

元来、アンケート調査は集団の傾向を探ることを目的とするが、ここでは記名調査とした。指導を必要とする学生への対応を考慮しているからである。各部門で評価が低い学生12名にメールを送り、問題となる事項に対するメール相談を呼びかけた。

相談例は教員志望部門である。表2は、教員志望（先生になりたい気持ち）について、4月当初（設問2）と8月末（設問11）の結果である。

表2 先生になりたい気持ち

4月/8月	とても	できれば	迷って	あまり	4月計
とても	35	4	1 <sup>*1</sup>	1	41
できれば	2	13	2	0	17
迷っている	0	5	8	1 <sup>*2</sup>	14
あまり	0	0	0	1	1
8月計	37	22	11	3	73

抽出\*1（とてもになりたい→迷っている）

抽出\*2（迷っている→余りなりたくない）

相談を促すメール事例 抽出\*1さんへ：教師の仕事の大変さに不安を持っていた\*1さんは、10月末、1月末ともに、「やや（できれば）になりたい」と回答している。

2007年9月1日 16:25 \*1さんへ 鯉風味の本多氏より  
アンケートによると、8月末で教員を志望する気持ちが4月当初より弱くなっているようです。心配になりメールしました。ひょっとしたら子どもたちとの関係が、担任の先生との関係がうまくいっていないのではないのでしょうか。ちょっとしたことが原因で行き違いを生じることがあります。先生になりたいと希望を持って活動すると、迷って活動するのではあなたの活気が違ってきます。結果も違ってきます。もし相談する気持ちがあれば事情を聞かせてください。メールを待っています。

##### ◇ 2007年9月1日 17:02 \*1より

こんにちは。担任の先生や子どもたちとの関係というよりも、“教師”の理想と現実のギャップだと思います。私は昔から子どもが好きで、近所の子どもの世話をしたこともありました。それで教師になりたいと思うようになりました。しかし、学びのアシストを通して私が思っていた以上に教師の大変さや子どもが好きという気持ちだけでは駄目だということを知りました。また、私はあまり人付き合いが得意ではありません。人付き合いが苦手な私には教師は向いていないんじゃない

ないか…と考えるようになったんです。これらが気持ち弱まった原因だと思います。

**2007年9月2日 13:32** \* 1さんへ 鯉風味の本多氏より  
正直に答えてくれました。以前のメールで、元気なクラスと聞いていました。担任の先生の大変さも見ていたのでしょう。確かに教師の仕事は大変ですが、努力していると子どもたちとの連帯感が生まれてきます。公立学校の先生と子どもたちの関係は親子に近いものがあります。嫌だったらやめるといふわけにはいきません。何とかして目標に向かってのやる気を育てることが大切な仕事になります。そのためには、こつこつと日々の努力を続ける以外に方法がありません。先生は子どもたちの日々の反応を見ながら対策をたてて実践することをくり返します。ある時は先輩や同僚と相談しながら、この苦労の向こうに大きな喜びがあります。私も学級経営がうまくいなくて、一学期間苦しんだ思い出がありますよ。

次に人付き合いですが、付き合いが上手でないとすばらしい先生になれないというわけでもありません。相手の話の聞き上手という手法もあります。共感して聞くことにより意思の疎通を図ることができます。どんな職業を選んでも理想と現実とのギャップはあります。教師は子どもたちの笑顔をめざしてがんばるのです。苦勞すればするほど価値がありますよ。

◇

**相談を促すメール事例抽出** \* 2さんへ：保育や社会福祉士を志望する \* 2さんは、教師志望が「迷っている」から「余りなりたくない」へ変わったが、10月、1月では「できればなりたい」と回答している。

**2007年9月1日 16:35** \* 2さんへ 鯉風味の本多氏より  
アンケートによると、8月末で教員を志望する気持ちが4月当初より弱くなっているようです。心配になりメールしました。ひょっとしたら子どもたちとの関係が、担任の先生との関係がうまくいっていないのではないのでしょうか。ちょっとしたことが原因で行き違いを生じることがあります。先生になりたいと希望を持って活動するのと、迷って活動するのではあなたの活気が違ってきます。結果も違ってきます。もし相談する気持ちがあれば、事情を聞かせてください。メールを待っています。

◇**2007年9月1日 18:39** \* 2より  
メールありがとうございます。私が教員志望ではなくなったのは、学びのアシストが原因ではありません。私は4月のころ、幼稚園と保育園の免許を取るつもりでした。しかしこのときすでに、社会福祉士の資格を取るかということで悩んでいました。だから、この授業を取るか悩みました。しかし、M先生に“将来、子どもと関わる仕事に就こうと思っている人はとった方がいい”と言われて、この授業をとることを決めました。たくさん悩んだ末に、保育士と社会福祉士の資格

を取ることにしました。せっかく希望の大学に入れたのだから自分のやりたいことをしようという考えに至りました。だから逆に、この決断をしてから学びのアシストを自分がとっても良かったのだろうかと不安になりました。しかし辞めたいわけではありません。子どもたちはとても元気に私のことを“先生!”と呼んでくれ、また担任の先生はとても尊敬できる人です。小学校に行くことはとても楽しみなことです。以上がなりたくないというのに○をした理由です。しかし、正直この質問に答えるときに、どっちにつければよいのか悩みました。なりたくないというよりも、なれない道を選んだので、そのように回答しました。

学びのアシストが原因ではありません。むしろ、前よりも教師という仕事の素晴らしさがわかった気がします。ご心配をおかけしてすいませんでした。先生からのメールはとてもうれしかったです。ありがとうございました。

**2007年9月2日 14:41** \* 2さんへ 鯉風味の本多氏より  
あなたの人生観、やる気に敬意を表します。保育士、社会福祉士ともに人間関係が大切となる職業です。学びのアシストは子どもたちとの人間関係の大切さを第一に学びます。教育技法は次の課題となります。ここが教育実習と大きく違うところです。従って、あなたが学びのアシストの活動をするには理にかなっています。がんばってください。でも、配置校ではそのことを主張しないでください。誤解される恐れがあるからです。何かあったらまたメールください。

## (2) 担当者（元義務籍教師）の直感から

**表3 メール交信回数** 受講生：74名

	受信	送信	計	$\chi^2$ 検定
6～8月	467	482	949	$\chi^2 = 28.1$ 0.1%水準で有意
9月	30	111	150	
10月	345	528	873	$\chi^2 = 5.2$ 1%水準で有意
11～1月	334	637	971	

\* 受信：学生より担当教官へ 送信：担当教官より学生へ

1学期中は、メールアドレスの報告やまだ短い活動報告、麻疹騒動に関する一斉メールへの返信や自発的なメールを送ってきていた。区切りとなる8月31日の全体報告会では、毎回のメール報告を促した。しかし、9月に入り学生からの活動報告が激減し、活動状況が把握できなくなった(表3)。担当者たちは、問題が起きてから対処する相談でなく積極的な活動を促進するためのメール活用をめざしていたので、問題発生を危惧していた。その時、学生が配置校訪問日を無断で欠席し子どもたちががっかりしている、という苦情が出た。そこで、今一度メールでの報告から相談というサイクルで活動を支えようと、一斉メールを送信した。



全員送付メール：「※注意」の効果かどうかは分からないが、10月より報告数は盛りかえた。それでも、時と共に効果は薄れていった（表3）。

#### 2007年9月28日 19:53 学びのアシスト毎回報告について

9月に入ってからたくさんの活動を経験していることと思います。ご苦労様。皆さんの活動が円滑にすすむよう、これまでもE-メールによる活動報告をお願いしていました。うまくいっているという感想が多数ある中で、戸惑っているという人たちが若干みられます。メールを出さない人の中にも戸惑っている人がいるのではないかと心配です。そこで、今後全員の活動状況を把握し、適切な支援を図ることとしました。

10月より、下記により毎回の報告をお願いします。

#### 記

期限	毎回活動の翌日まで
宛先	本多客員教授のメールへ
内容	1 実施日・開始時刻～終了時刻(滞在時間) 2 主な活動内容(見出し程度) 3 感想(感動したこと、心配なことなど)
※注意	今後、報告の有無も評価の資料とします。 しっかり報告しましょう。

#### (3) メール報告からの発見

アシスト仲間を心配するメール：このような報告がある頃には、私たちが元教員の働き、学生の一部に活動内容やメール報告の中だるみを感じていた。

#### ◇2007年11月28日 23:51 学びのアシストAより

先週、風邪で休んでしまったので今日は2週間ぶりの小学校で少し緊張しましたが、特に問題もなく無事に過ごすことができホッとしています。しかし、少し気になることがあります。同じ小学校に行っているもう一人がもう3週間連続で休んでいます。最初の2回は風邪ということとでちゃんと連絡したようですが、今日は無断だったようでちょっと問題になっていました。何か事情を知らないかと聞かれましたが、私はコースも違って行くときもばらばらなので全く連絡をとっていません。今後、同じ学校に行っている相手とは連絡を取り合った方がよいのでしょうか？

全員一斉メール：早速全員送付メールで再度報告の徹底と気持ちの引き締めを求めた。

#### 2007年12月6日 14:43 学びのアシスト毎回報告徹底について

10月に入ってから毎週45～55名の活動報告があります。毎回がんばってくれてご苦労様。大部分の皆さんは多少の苦難を乗り越えて満足感に溢れる活動を続けています。しかし、十数名の人がほとんどメール報告をしていません。今回はその中から久しぶりの訪問予定を報告なく休んで子どもたちの期待を裏切ったという苦情がでました。毎回報告をきちんとしておればよいという考えもありますが、おきてからでは遅い場

合もあります。そういうことへの予防も含めたメール相談です。心配が現実になりました。学校で子どもたちにルールを指導することも教師の大事な仕事です。アシストとして活動をするのであれば指導者です。指導者はしっかりと約束事を守りましょう。ほとんどの皆さんには不必要な案内ですが、全員に再度連絡します。12月より、毎回の報告をお願いします。

#### 3. メール相談返信回数

74名の学生たちとの返信文はメール文を段落や全体のデザインも整えたうえで、A4用紙(41字×50行)に転載した。年間を通した総ページ数は463であった。毎水曜日後には約40名からメール報告があり、返信書きに追われた。メールを整理し文書化することは返信内容の整合性を維持するために必要であった。2月に入り活動を終了した者が増えたので、研究にあたっては比較的多くの学生と返信した9月から1月末までの返信を集計した。この間の最高返信回数者は54回、最低返信回数者は6回、平均返信回数24.9回であった。

#### II. 目的

学びのアシストの活動目的の一つは、学級担任の仕事を支援することを通して、学習指導や生活指導等の教育技術以前に集団の中での人間関係づくりが大切であることを学ぶものである。この学びを支援する点でメールによる相談は教育的に機能していると評価され得るのか。本研究はこの新分野の開拓をめざしている。E-メール相談は対面でないことより意思の疎通をはかるという面で大きな障害をもつが、一方で時空を超えた利便性もある。長年の教師の感を頼りに実践し始めたメール相談であるが、この新しい試みに確かな根拠を得、今後の活動の指針を持つことをねらいとする。

#### III. 方法

74名の参加者をメール相談返信回数の多少で2グループに分け、両グループに分割した3回のアンケート結果を比較する方法と、返信回数上位者(12名)と下位者(12名)との返信メール文をカテゴリー分析する方法をとる。

#### III-1 アンケート結果をメール返信の多いグループと少ないグループに分割して比較

##### (1) 活動の時間経過による活動意識の変化を比較

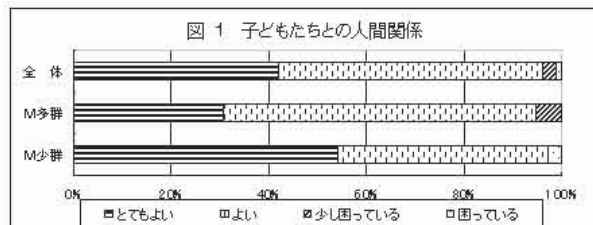
表4は活動を経るにしたがい変化する各項目平均値について統計的に有意な差があるかどうかを検定した結果である。「メールを活用したか」という項目を例にとると、月を経るにしたがって平均値は2.92>1.74>1.54と減少している(選択肢は 1:大いに活用した～4:全く活用していない)なので実際の記述は増加したとなる)。8月から10月は明らかに減少しているが、10月から1月の減少は有意な差が認められない(誤差の範囲)ということになる。

表 4 メール発信の多いグループにおけるアンケート平均値の比較（第 1 回～第 3 回）

	アンケート									t-検定			
	8 月			10 月			1 月			8 月と 10 月		10 月と 1 月	
	n	m	S D	n	m	S D	n	m	S D	Z o	有意差	Z o	有意差
授業中の学習指導助	39	2.26	0.81	39	1.87	0.69	39	1.72	0.81	21.78	*	0.87	n.s
採点・教材作成等	39	2.38	0.84	39	2.26	0.81	39	2.28	0.78	0.662	n.s	0.14	n.s
放課後の学習指導	39	3.62	0.70	39	3.38	0.74	39	3.44	0.74	1.359	n.s	0.29	n.s
児童の相談・遊び相手	39	2.33	0.92	39	1.72	0.75	39	1.46	0.71	3.122	**	1.49	n.s
清掃活動等環境整備	39	2.82	0.93	39	2.03	0.80	39	2.08	1.05	3.887	***	0.23	n.s
配置校の活動に満足	39	1.87	0.85	39	1.51	0.55	39	1.38	0.58	2.124	*	0.96	n.s
子どもたちとよい関係	39	1.82	0.50	39	1.74	0.54	39	1.33	0.47	0.626	n.s	3.43	**
担任の先生と	39	1.67	0.52	39	1.82	0.55	39	1.41	0.54	1.218	n.s	3.19	**
校長先生や他の先生と	39	1.72	0.50	39	1.87	0.33	39	1.44	0.50	1.527	n.s	4.37	***
大学の先生と	39	1.85	0.43	39	1.92	0.35	39	1.64	0.48	0.837	n.s	2.85	**
メールを活用したか	39	2.92	0.80	39	1.74	0.59	39	1.54	0.84	7.150	***	1.20	n.s
メールは役立つと思うか	39	1.51	0.64	39	1.44	0.55	38	1.39	0.63	0.551	n.s	0.30	n.s
教員になりたい気持ち	39	1.69	0.88	39	1.79	0.88	39	1.77	0.92	0.493	n.s	0.12	n.s

n：人数 m：平均 Z：有意水準（危険率）：なし  
 SD：標準偏差

(2) 主にアンケート同項目での分布の違いから活動意識を比較



$\chi^2=4.2$  5%水準で有意

図 1 は、10 月実施アンケートの項目「子どもたちとはよい関係か」の全体と M 多群（メール発信の多いグループ）

表 5 相談・遊び相手への取り組み 選択者数の変化

	10 月			1 月		
	M 多群	M 少群	計	M 多群	M 少群	計
とても多い	18	15	33	26	15	41
かなりあった	14	13	27	8	13	21
少なかった	7	7	14	5	7	12
なし	0	0	0	0	0	0
計	39	35	74	39	35	74
$\chi^2$ 検定	$\chi^2=0.1$ 有意差なし			$\chi^2=4.2$ 5%水準で有意		

表 6 相関係数 発信回数の多いグループ 10 月実施アンケート

	4	5	61	62	63	64	65	7	81	82	83	9	10	11
4 出校回数		0.65	-0.24	-0.28	-0.04	-0.37	-0.04	-0.17	-0.35	-0.19	-0.38	-0.16	-0.08	0.15
85 活動時数	**		-0.24	-0.28	0.03	-0.46	-0.16	-0.11	-0.38	-1.06	-0.32	-0.37	-0.18	0.03
61 授業中の学習指導助				0.06	0.10	0.28	-0.18	0.11	-0.02	0.08	0.04	0.24	0.01	0.00
62 採点・教材作成等					0.09	-0.13	0.27	0.15	0.36	0.36	0.43	0.09	0.35	-0.03
63 放課後の学習指導						-0.13	0.11	0.02	0.12	-0.15	0.10	0.05	0.03	-0.12
64 児童の相談・遊び相手		***					0.27	0.16	0.45	0.13	0.37	0.07	-0.08	-0.09
65 清掃活動等環境整備								0.15	0.49	0.13	0.20	0.07	0.09	-0.03
7 配置校の活動に満足か									0.36	0.39	0.36	-0.07	0.02	0.27
81 子どもたちと						**	**			0.36	0.53	0.20	0.12	0.10
82 担任の先生と											0.43	0.02	0.18	0.08
83 校長先生や他の先生と				**					**	**		0.09	0.17	-0.18
9 活用したか													0.35	0.10
10 役立つと思うか														-0.03
11 教員志望・後														

強い相関がある (\*\*\*)  $\pm 0.7 \sim \pm 1$       中程度の相関が (\*\*)  $\pm 0.4 \sim \pm 0.7$       弱い相関が  $\pm 0.2 \sim \pm 0.4$       ほとんどない  $\pm 0 \sim \pm 0.2$

プ）、M 少群（少ないグループ）の選択分布と検定結果である。「とてもよい」という評価の部分に注目すると、平均値となる全体を基準に M 多群と M 少群では正反対の分布を示している。すなわち、「メール発信の少ないグループは、子どもたちとの関係がととてもよく、これに反して発信の多いグループではそれ以外である。」ということがいえる。

表 5-2 単純化（2×2 分割）

	10 月			1 月		
	M 多群	M 少群	計	M 多群	M 少群	計
とても多い	18	15	33	26	15	33
それ以外	21	20	27	13	20	27
計	39	35	74	39	35	74

百分率で数値を表した図 1 に対して、表 5 は実数で表記している。グラフに対して分布の様子がとらえにくい、表 5-2 のようにまとめてみると関係がわかりやすい。ここでの  $\chi^2$  検定は、この 2×2 分割表に書き換えて実施した。結果は、「相談・遊び相手の活動は、10 月では大きな違いが見られなかったが、1 月ではメール発信の多いグループはととても多く参加し、これに反して発信の少ないグループではととても多くの参加はない」となる。

(3) 同時期実施で同グループ内のアンケートの項目間での相関関係を解釈に活用

表6は相関関係を表示するマトリックスである。右上は相関係数を左下は相関係数の強さを「\*」数で表す。ここでは弱い相関は省いた。(1)と(2)で有意な差が出た項目を並べて解釈するとき、その項目間の相関が強いと断定できれば因果関係にあるかどうかの解釈に活用できる。たとえば、表4で「清掃活動等の活動」への参加の平均は2.82→2.03へ下がっている。すなわち、よく参加するようになった。表6の相関係数では「清掃活動等の活動」と「子どもたちとの関係」が高い相関があるという。一方で「子どもたちとの関係」の平均値は変わらないが(表4)、図1でM多群はM少群より関係がよくないというデータがある。これらをふまえて、因果関係を含めた解釈を試みることができる。

Ⅲ-2 メール発信上位者12名と発信下位者12名に分割したメール内容カテゴリー分析結果の比較

本多は授業のカテゴリー分析と授業評価から授業改善をめざしてきた(本多1984, 1986)。この中で、カテゴリー分析はOSIA-IV(Hough & Duncan 1980)を採用し、授業評価はアンケート形式で、児童生徒の参加意識や態度自己評価をもとにした。数値化した両データから統計的に有意な差のある項目を抽出して、その解釈から授業改善の方向を探ってきた。このOSIA-IVの特徴としてサブカテゴリーの活用がある。分析の目的にあったサブカテゴリーを自由に導入するものである。今回の分析は教師と学生1:1のメール文である。このことをふまえ、時系列の区切りでのコード化でなく1メール全体に対してコード化することとした。また、相互関係が、教師と学生以外の第三者の介入が無く、一つの活動での意見交換の回数が少ないなど、単純であることより、受信文(学生からのメール)と送信文(大学教員からのメール)では異なるカテゴリーとし、分析の簡明化を図った。

(1) メール内容カテゴリーと「文例」

ア. 送信カテゴリー(教師→学生)

肯定: 好意的な送信文。個別の問題で受容、否定と評価が分かれた場合、肯定評価を第一順位とした。

表7 コード化されたメール内容カテゴリー集計表

No.	氏名  通信時刻	送受信	送信カテゴリー					受信カテゴリー					文長 ÷ 度数	度数	一斉 送信
			評 価		説明	要請	内 容			疑問	感性				
			肯定	受容			否定	傍観	主体			運営			
	〇〇〇〇														
2	9月1日 20:32	受						1			1	1	8		
3	9月2日 14:52	送	1			1							8		
計（受信）		受	0	0	0	0	0	0	14	7	4	18	210	10.0	21
計（送信）		送	13	6	1	15	12	0	0	0	0	0	135	6.8	20

「ほぼ一日の活動ご苦労様でした。

学校でうれしいことが見つかるなんてすばらしいですね。しかも2つもです。たわいのないことかもしれませんが、この気持ちが大切なのです。幸せは自分の心が決めるものですね。2人の方から私に近寄ってきてくれたこといいですね。」

受容: 好意や嫌悪の評価を入れず、内容をそのまま復唱する送信文。アンケート結果など、事実を元にした送信文もこのカテゴリーとした。

「アンケートによると、子どもたちとの人間関係で少し困っているとありました。心配になりメールしました。」

「騒がしかったり、立ち歩いたりする(ですか。それ)には、理由があると考えましょう。」

否定: 好ましくない気持ち表した送信文。否定的な評価をされた場合、受信した側のモチベーションは上がらないと考えられる。正すべきことはきちんと指導しなければ、配置校での活動に支障が出ると考えている。

「きちんと翌日までに報告しましょう。子どもを指導する先生が約束を守れなくてどうするのでしょうか。率先垂範ですよ。」

・以上の3カテゴリーは学生達の活動への評価を含んでいる。学生たちの意欲を高めるには、肯定的評価が好ましい。メール発信数の多いグループと少ないグループでの相違が予想される。

説明: 疑問への応答、課題の発掘、情報の提示の内容「けんかが多くて大変ですね。休み時間のけんかがですね。アシストさんは、とりあえず、けんかが始まる気配を感じたら二人の間へはいることです。そして話しかけるのです。始まってからでは遅いのです。こんなことをしていれば、先生がどんな気持ちでいるのか分かってきます。次は、けんかをしている中に入ってどうしたの、怒っているわけを話してごらん。と双方の話を聞くのです。どちらがいいとか言うのではなく、言い分をしっかりと聞いてあげるのです。我慢するという部分がでたら大いに褒めましょう。」

要請: 新しい行動の指示、補足情報などの返信要請

「がんばる人には応援団がいる。ひとりぼっちではありません。だから、自分の性格の悩みについては、なかなか結論が出ません。愚痴でもいいですからメールしてください。」  
「風邪で欠席し1週間空いたので、楽しいお土産を仕入れていってください。喜びますよ。」



## イ. 受信カテゴリー（学生→教師）

傍観：報告が表層的、形式的、傍観的で具体的な内容の記述のない通信文。

「英語の授業は外国人の先生でした。日本人にはないオーバーリアクションで授業を行っていたので3年生は興味津々でした。計算練習は6限目だったので、半分以上の子どもがぼーっとしていました。」

主体：活動に参加した具体的な観察内容の記述が伴う通信文。

「算数の授業では手作りのてんびんをつかい、身近にあるものの重さ比べを行いました。グループごとに行う作業で、目の前にあるてんびんで子どもたちは遊びはじめ、先生の話を聞き逃したり、言われた通りの作業ができないグループがいくつかありました。そこで何回か注意しましたが、またすぐに話しはじめ集中力がなくなりました。そして子どもたちの集中力を取り戻すためにはどうしたらいいか考えました。」

運営：私的、運営的な内容の通信文。

「昨日から熱があり、今日の午前中にしばらく様子を見てたのですが、なかなか具合がよくならなかったの  
で小学校に連絡し、今回の活動を休ませて頂きました。」

・学びのアシスト活動は受信内容カテゴリーの主体（的な観察）をめざしている。指導のねらいが、学生の積極的な活動参加、すなわち配置校教師からの指示待ちで活

動するのでなく、自分なりにP-D-Sのサイクルを意識した活動へと進化してほしいからである。メール相談は、配置校での活動に対する観察力を高め、考え、実践するための支援と考えている。

疑問：観察から生まれた疑問、質問、悩みなどを含む通信文。疑問があるということは、主体的な活動をしていることにつながると考える。

「クラスに指しゃぶりや鉛筆かじりをする子がいます。他の子どもたちからは馬鹿にされています。ただ単に、かじるなどと言ってやめるような感じではないのです。私はどのように対応すればよいのでしょうか。」

感性：驚きや感動、喜びや悲しみの内容を含む通信文。この感情は表現活動の大切な要素である。学校で、教師がこのお手本を示すことは感性の学びに重要と考えている。礼儀、エチケットもこのカテゴリーに含む。

「今日は掃除の時間中、先生に言われなくてもみんなテキパキと動いていたので、とても感心しました。」  
「分かりました。ありがとうございました。」

## ウ. 共通

文長：時系列に変えてメール文の文長（各メールは1行を41字とする文章の行数で表示）で表示した。文章は段落等も設定し、全体のデザインも整えた。文長が長いことは主体的な活動に対する記述が多いと考える。

一斉送信：全員に送付し同じ内容なので、文長への記述から省いた。

文長÷度数：1メールの平均の長さである。受信文が長いと主体的な参加を表現する内容が期待できる。

## (2) メール交信上位者と下位者のメール内容カテゴリー集計項目間の比較

表8はカテゴリー集計である（紙面の都合上、個別集計内容との関係はメール送受信上位者のみ掲載）。

これらの集計結果の一部を抽出しまとめた表9から、メール送受信上位者への送信メールでは肯定的評価カテゴリーが多く、受容・否定的カテゴリーが少ない。一方送受信下位者では受容・

表8 送受信上位者メール内容カテゴリー集計表（\*\*\*下欄 下位者集計）

No.	氏名 通信時刻	送受信	送信カテゴリー					受信カテゴリー					文長 ÷ 度数	度数	一斉 送信	
			評価			解明	要請	内容			疑問	感性				
			肯定	受容	否定			傍観	主体	運営						
送受信上位者																
	計(受信)	受	0	0	0	0	0	0	14	7	9	18	210	10.0	21	
	計(送信)	送	13	6	1	15	12	0	0	0	0	0	135	6.8	20	5
	計(受信)	受	0	0	0	0	0	3	10	5	9	10	101	5.9	17	
	計(送信)	送	6	5	5	15	15	0	0	0	0	0	124	8.3	15	5
	計(受信)	受	0	0	0	0	0	0	18	6	7	17	132	6.0	22	
	計(送信)	送	9	6	0	15	12	0	0	0	0	0	95	6.3	15	5
	計(受信)	受	0	0	0	0	0	0	13	4	11	10	416	26.0	16	
	計(送信)	送	9	6	0	14	11	0	0	0	0	0	144	9.6	15	5
	計(受信)	受	0	0	0	0	0	4	20	5	13	15	193	7.1	27	
	計(送信)	送	7	12	0	18	17	0	0	0	0	0	129	6.8	19	5
	計(受信)	受	0	0	0	0	0	9	22	11	5	25	212	5.6	38	
	計(送信)	送	14	5	2	21	11	0	0	0	0	0	131	6.2	21	5
	計(受信)	受	0	0	0	0	0	0	17	2	9	10	135	7.1	19	
	計(送信)	送	5	7	1	12	13	0	0	0	0	0	109	8.4	13	5
	計(受信)	受	0	0	0	0	0	3	16	0	3	15	71	3.7	19	
	計(送信)	送	5	5	1	10	11	0	0	0	0	0	71	6.5	11	5
	計(受信)	受	0	0	0	0	0	0	20	7	10	15	178	6.8	26	
	計(送信)	送	9	6	2	13	17	0	0	0	0	0	144	8.5	17	5
	計(受信)	受	0	0	0	0	0	1	10	4	10	2	88	5.9	15	
	計(送信)	送	9	5	0	11	9	0	0	0	0	0	78	5.6	14	5
	計(受信)	受	0	0	0	0	0	4	11	4	4	12	100	5.3	19	
	計(送信)	送	9	4	3	15	10	0	0	0	0	0	105	6.6	16	5
	計(受信)	受	0	0	0	0	0	0	9	3	5	10	126	10.5	12	
	計(送信)	送	9	3	0	11	9	0	0	0	0	0	78	6.5	12	5
送受信上位者計			0	0	0	0	0	24	180	58	95	159	1962	100	251	0
送受信上位者計			104	70	15	170	147	0	0	0	0	0	1343	85.9	188	60
*****																
送受信下位者計			0	0	0	0	0	24	20	13	12	20	224	54.4	53	0
送受信下位者計			17	29	8	39	87	0	0	0	0	0	314	63.5	59	0

表9 肯定評価と受容・否定評価

	肯定	受・否	計
上位者	104	85	189
下位者	17	37	54
計	121	122	243

$\chi^2=9.3$  1%水準で有意

否定的カテゴリーが多く、肯定的評価カテゴリーが少ない。担当者はカウンセリングを専門としないが、肯定的な評価の重要性は十分認識していて気をつけていたつもりであるが、まだまだ不足しているという解釈ができる。

#### IV. 結果と考察

Ⅲ章で示した方法によりデーターを処理し、統計的に有意差のある項目を抽出した（結果）。そのデーターを整理・比較し相互関係や因果関係を読み取りまとめた（考察）。

##### IV-11 アンケート結果をメール交信の多いグループと少ないグループに分割して比較

###### (1) アンケート平均値変化

ア. メール交信の多いグループ（略称：M多群）

- |    |          |              |
|----|----------|--------------|
| 01 | 授業中の学習指導 | 8月より10月は多くなる |
| 02 | 相談・遊び相手  | 8月より10月は多くなる |
| 03 | 清掃活動等    | 8月より10月は多くなる |
| 04 | 活動の満足感   | 8月より10月は高くなる |
| 05 | メールの活用   | 8月より10月は多くなる |
| 06 | 子どもたちと   | 10月より1月はよくなる |
| 07 | 担任教師と    | 10月より1月はよくなる |
| 08 | 他の指導教師と  | 10月より1月はよくなる |
| 09 | 大学教官と    | 10月より1月はよくなる |

イ. メール交信の少ないグループ（略称：M少群）

- |    |          |              |
|----|----------|--------------|
| 10 | 授業中の学習指導 | 8月より10月は多くなる |
| 11 | 活動の満足感   | 8月より10月は高くなる |
| 12 | 子どもたちと   | 8月より10月はよくなる |
| 13 | メールの活用   | 8月より10月は多くなる |
| 14 | メールの効果   | 8月より10月は高くなる |

###### (2) 相反する選択肢分布をするアンケート項目

ア. 8月実施アンケート

- 15 有意差のある項目なし

イ. 10月実施アンケート

- |    |         |                |
|----|---------|----------------|
| 16 | 清掃活動等   | M多群は多く、M少群は少ない |
| 17 | 子どもたちと  | M多群は悪く、M少群はよい  |
| 18 | 担任教師と   | M多群は悪く、M少群はよい  |
| 19 | 他の指導教師と | M多群は悪く、M少群はよい  |
| 20 | メールの活用  | M多群は多く、M少群は少ない |
| 21 | メールの効果  | M多群は高く、M少群は低い  |

ウ. 1月実施アンケート

- |    |         |                |
|----|---------|----------------|
| 22 | 相談・遊び相手 | M多群は多く、M少群は少ない |
| 23 | 清掃活動等   | M多群は多く、M少群は少ない |
| 24 | 活動の満足感  | M多群は高く、M少群は低い  |
| 25 | メールの活用  | M多群は多く、M少群は少ない |
| 26 | メールの効果  | M多群は高く、M少群は低い  |

###### (3) アンケート項目間の相関関係

ア. 8月M多群での相関

- |    |                       |
|----|-----------------------|
| 27 | 「相談・遊び相手」と「活動の満足感」で相関 |
| 28 | 「活動の満足感」と「子どもたちと」で相関  |
| 29 | 「活動の満足感」と「担任教師と」で相関   |
| 30 | 「子どもたちと」と「担任教師と」で相関   |
| 31 | 「子どもたちと」と「他の指導教師と」で相関 |
| 32 | 「担任教師と」と「他の指導教師と」で相関  |

イ. 8月M少群での相関

- |    |                       |
|----|-----------------------|
| 33 | 「採点・教材作成」と「清掃活動等」で相関  |
| 34 | 「相談・遊び相手」と「活動の満足感」で相関 |
| 35 | 「相談・遊び相手」と「子どもたちと」で相関 |
| 36 | 「活動の満足感」と「子どもたちと」で相関  |
| 37 | 「活動の満足感」と「担任教師と」で相関   |
| 38 | 「活動の満足感」と「他の指導教師と」で相関 |
| 39 | 「子どもたちと」と「担任教師と」で相関   |
| 40 | 「子どもたちと」と「他の指導教師と」で相関 |
| 41 | 「担任教師と」と「他の指導教師と」で相関  |

ウ. 10月M多群での相関

- |    |                        |
|----|------------------------|
| 42 | 「採点・教材作成」と「他の指導教師と」で相関 |
| 43 | 「相談・遊び相手」と「子どもたちと」で相関  |
| 44 | 「清掃活動等」と「子どもたちと」で相関    |
| 45 | 「子どもたちと」と「他の指導教師と」で相関  |
| 46 | 「担任教師と」と「他の指導教師と」で相関   |

エ. 10月M少群での相関

- |    |                         |
|----|-------------------------|
| 47 | 「授業中の学習指導」と「活動の満足感」で相関  |
| 48 | 「授業中の学習指導」と「担任教師と」で相関   |
| 49 | 「授業中の学習指導」と「他の指導教師と」で相関 |
| 50 | 「相談・遊び相手」と「清掃活動等」で相関    |
| 51 | 「活動の満足感」と「担任教師と」で相関     |
| 52 | 「活動の満足感」と「他の指導教師と」で相関   |
| 53 | 「子どもたちと」と「担任教師と」で相関     |
| 54 | 「子どもたちと」と「他の指導教師と」で相関   |
| 55 | 「担任教師と」と「他の指導教師と」で相関    |
| 56 | 「メール活用」と「メールの効果」で相関     |

オ. 1月M多群での相関

- |    |                        |
|----|------------------------|
| 57 | 「授業中の学習指導」と「活動の満足感」で相関 |
| 58 | 「授業中の学習指導」と「子どもたちと」で相関 |
| 59 | 「授業中の学習指導」と「教員志望」で相関   |
| 60 | 「活動の満足感」と「教員志望」で相関     |
| 61 | 「子どもたちと」と「他の指導教師と」で相関  |
| 62 | 「担任教師と」と「他の指導教師と」で相関   |

カ. 1月M少群での相関

- |    |                         |
|----|-------------------------|
| 63 | 「授業中の学習指導」と「担任教師と」で相関   |
| 64 | 「採点・教材作成」と「放課後の学習指導」で相関 |
| 65 | 「採点・教材作成」と「子どもたちと」で相関   |
| 66 | 「子どもたちと」と「他の指導教師と」で相関   |
| 67 | 「担任教師と」と「他の指導教師と」で相関    |
| 68 | 「担任教師と」と「教員志望」で相関       |



#### IV-12 アンケート結果の整理と考察

結果の整理には、特徴を読み取りやすくするため、できる限り概念図化を試みた。数値をそのまま読み取るとは至難の業であり、間違いを犯しやすいからである。

##### (1) 8月実施アンケートについて

ア. 整理

◇相反する選択分布項目と平均値より

8月実施アンケートで有意差のある項目はない。

◇相関関係より

図2 8月相関関係 M多群

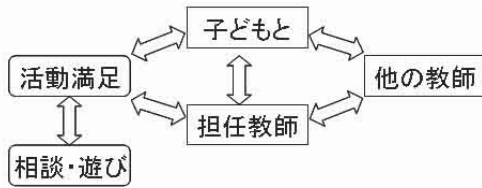


図3 8月相関関係 M少群

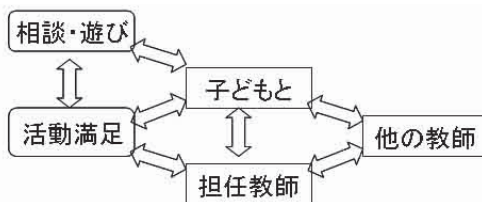


図2、図3は強い相関関係をもつ項目をまとめ、M多群とM少群の特徴を図示したものである。

両群共に「活動に満足」と学校内の人間関係が密接である。また「活動に満足」と「相談・遊び」の活動の関係も密接であり、M少群は「子どもとの関係」を含めた関連が強い(図2、図3)。

イ. 考察

結果のまとめ：8月末のアンケートでは、主として「子どもたちの相談や遊び相手の活動」が「配置校での活動の満足度」と密接で、「活動に満足」が「子どもたちとの人間関係」をはじめとする学校での人間関係全体に関係している。これらは両群にほぼ共通している。  
総括：まだ活動も少ない時期でのアンケートであった。平均値や相反する選択分布項目がないことと相関関係がほぼ同じことよりメールの発信回数の多少での相違は表れていない。

アシストたちは、とりあえずは学校側の指示を頼りに、子どもたちとの関係を良好にするよう「相談・遊び」の活動に力を入れている様子がうかがえる。

##### (2) 10月実施アンケートについて

ア. 整理

◇平均値より

M多群の平均値の伸びは「学校での活動の種類」で多

図4 8月→10月平均値の変化 M多群

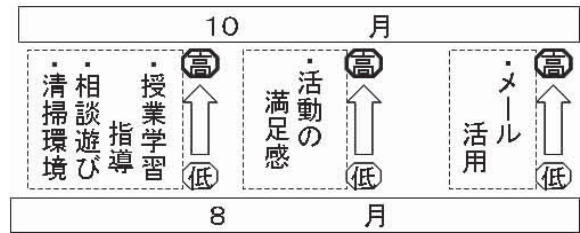


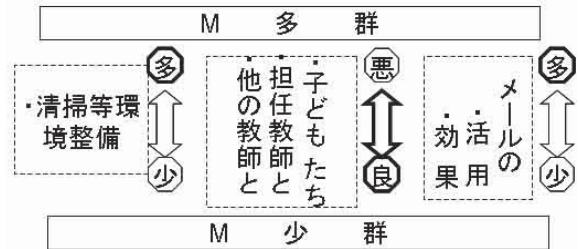
図5 8月→10月平均値の変化 M少群



くなっている。M少群の平均値は「子どもたちとの関係」が向上しており、「メールの効果」でも向上している(図4、図5)。

◇相反する選択分布項目より

図6 10月相反する選択分布項目



M多群とM少群で相反する特徴を表す関係が、「学校での人間関係」総てで「M多群が悪く、M少群が良い」である。一方「清掃等環境整備」と「メールの活用と効果」では、共に「M多群が多くとM少群が少ない」である。両者で相反する特徴を表す関係が逆の関係になっており、これは非常に大きな特徴である。

◇相関関係より

図7 10月相関関係 M多群

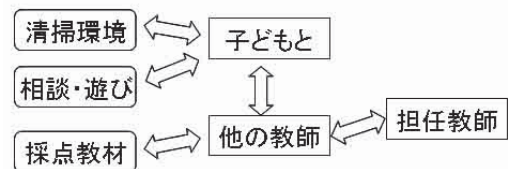
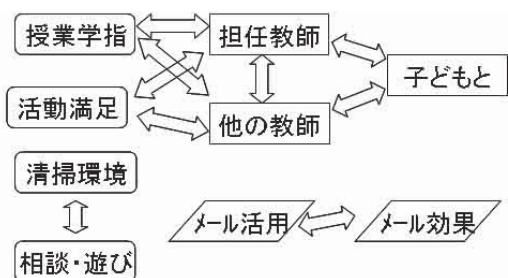


図8 10月相関関係 M少群



M多群では、異なった活動群を結ぶつながりが2つが見られる。一つは「学校での活動」と「子どもとの人間関係」との相関であり、他は「学校での活動」と「教師との人間関係」との相関である。一方M少群では、「学校での活動」と「教師との人間関係」との相関のみである（他は同一郡内での相関）。

#### イ. 考察

**結果のまとめ：**10月末のアンケートでは、多くの項目で8月より平均が向上している。特にM多群は配置校での活動が増え、活動の満足感も増している。しかし相反する選択分布で、清掃活動は“M多群が多く、M少群は少ない”一方で、子どもたちとの関係はその逆に、M多群は悪く、M少群はよい”。また、メール効果は共に“M多群は高く、M少群は低い”。

人間関係では、配置校での活動の内「清掃等環境整備」と「子どもたちの相談・遊び相手」が「子どもたちと」、「授業での学習指導補助」や「採点・教材作成の補助」は「担任・他の教師」と相関がある

**総括：**10月末では、一斉メールなどのてこ入れもあり、メール報告も増し活動も充実したと感じていた。この教師の直感の通りアンケート平均値は向上した。しかし、より積極的主体的指導が求められる清掃活動にM多群がM少群より多く取り組んだことにより、M多群が指導に困り、子どもたちとの関係は“M少群よりM多群が悪く”なった。M多群はこの悩み解消のためメール活用が多くなった。

**問題提起を促すメール事例：**掃除指導は面倒なことである。誰しも面倒から遠ざかりたいのであるが、メール相談は積極的に参加するよう働きかけ、新たな問題を共に考える機能があると考えている。

この考察にあたっては1月末アンケートの結果やメール内容も判断の根拠にしている。

◇2007年10月24日 18:20 B（M多群）より

**活動内容：**授業補助、ワックスがけ、教室の掲示  
久しぶりに子どもと遊んだり話したりしてとても楽しかったです。先生とも作業しながら話してアドバイスをしてもらえたのでよかったです。  
掃除を多くの子がしっかりとしていません。うまく促すにはどのようにしたらいいですか？

2007年10月24日 21:42 Bさんへ 鯉風味の本多氏より  
学びのアシストは、まず子どもたちと仲良しになること、それと真面目に活動して子どもたちに信頼されることです。これが教育の土台です。うまくいってますね。掃除をうまく促すには→率先垂範です。「B先生、今日はここをきれいにするから任せてね。」終わったら、「きれいになったでしょう。すっきりした一つ。」ぐらい言うと、仲間が増えます。後は、がんばった子を褒めるのです。



◇2007年10月25日 22:59 C（M少群）より

六年生の算数が遅れがちな生徒に、個別で教えてあげたのですが、やり方を教えてあげるとちゃんと出来ていたので、個人的にはうまくいったと思いました。久しぶりの給食はおいしかったです！

2007年10月24日 21:42 Cさんへ 鯉風味の本多氏より  
丸一日の活動ご苦労様ですが、他に何かの活動で心に残ったことはありませんか。少しでも書いてあればより良い活動へのヒントをあげることができますが。やり方を教えてあげてちゃんとできるようになってよかったですね。次の時間にでも、定着したか確認してみしましょう。定着していなかったとしてもがっかりしないでください。そうならば、次の対策を考えればよいのですから。教育はこの連続です。

給食はOKですね。掃除の時間はどうしていますか。

◇2007年10月26日 1:30 Cより

そうじの時間はどうしていいかわからなくて、ずっと職員室にいました。

2007年10月28日 13:01 Cさんへ 鯉風味の本多氏より  
私の掃除指導の秘訣を教えます。それは、率先垂範です。「B先生は、今日はここをきれいにするぞ。」と言って始めます。終わったら、「わーきれいになったね。疲れたけど気持ちいいねー。」  
これですよ。考える前にまず行動から、です。

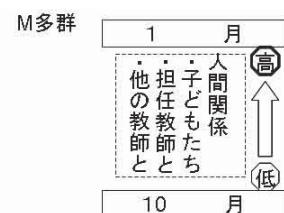
#### (3) 1月実施アンケートについて

ア. 整理

◇平均値より

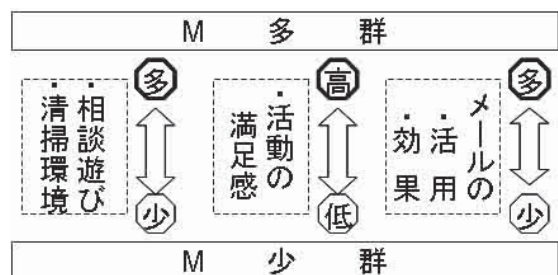
M多群は学校での人間関係総てで上昇した。

図9 10月→1月平均値の変化



◇相反する選択分布項目より

図10 1月 相反する選択分布項目



項目総てで、M少群よりM多群が良く、項目相互に整合的な関係があると予想できる。

◇相関関係より

図11 1月相関関係 M多群

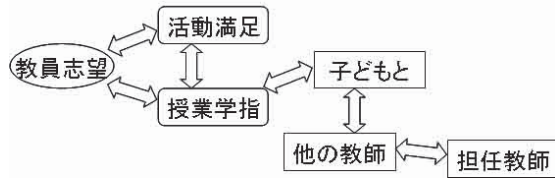
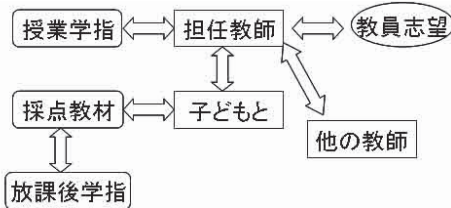


図12 1月相関関係 M少群



M多群では「授業の学習指導補助」を中心として見ると、一方で「活動に満足」「教員志望」との連鎖があり、他方では「子どもたち」とつながっている。

M少群では、「担任教師」を中心に「教員志望」と「授業の学習指導補助」「子どもと」につながる。中心はあくまで担任教師となっている。

#### イ. 考察

結果のまとめ：相反する選択分布項目で、前回M多群がより悪いという結果であった「学校内人間関係（子どもたち）」が、平均変化のM多群で「学校内人間関係」総てでより良い方に向上した。

相反する選択項目分布で、M多群がより「活動の満足感」が高いとする結果が現れ、学校での活動群及びメール群と整合的に対比できる。

相関関係では、項目「教員志望」が新出した。M多群では「授業の学習指導補助」を中心に「子どもたち」と繋がっている。M少群では、「担任教師」を中心に「教員志望」と「授業の学習指導補助」等が連なる。

総括：10月末アンケートで表れたM多群の問題点は1月末アンケートでは解消した。M多群の「清掃等環境整備」活動での問題は、メールをより活用したことにより積極的・主体的に活動でき、困難を克服してより活動に満足とするまで改善できた。メール活用の効果がより高いということからもメールへの信頼感がうかがえる。M多群のこの主体的な活動姿勢が、相関関係で「授業の学習指導補助」を中核に「活動に満足」「教員志望」の連鎖を生んでいる。

一方M少群では、「担任教師」を中核に「教員志望」「授業の学習指導補助」「子どもたち」が連なる。担任教師を中核とすることは、学びのアシスト活動にまだ主体性や積極性が育っていないと考えられる。

学習指導へのアドバイス事例：このDさんのメールをきっかけに「子ども目線での授業観察」をすすめるようになった。アシストのレベルでも観察の視点を定めて授業改善の進め方を考えるようになっていった。

◇2007年10月3日 18:37 Dより

最近はいよいよ学習の指導にも慣れてきて、児童達の「わかった!」「解けた!」という表情を見るのがとても嬉しいです。今日は算数の時間に、「10mの白のリボンは、5mの赤のリボンの何倍ありますか。」という問題をしました。もちろん答えは「2倍」なのですが、児童達は、何故式が「 $10 \div 5$ 」になるのかわからなかったようです。その時はKさんという女の子に教えていたのですが、式が $10 \div 5$ になることをうまく説明できない自分がいました。この時に「子ども目線」というものをほんのわずかですが実感できたと思います。まだまだ受け身の姿勢でアシスト先生として活動してしまいます。もっと自分から活動できるようにしたいです。また臨機応変に対処できるよう、視野を広く行動することを心がけようと思いました。

2007年10月3日 23:25 Dさんへ 鯉風味の本多氏より

今日はご苦労様。「わかった!」「解けた!」という表情を見るのがとても嬉しいというのは、ベテランでもそうなのですよ。何倍とは？ $10 \div 5$ とは？白いリボンと赤いリボンを比べるの？長さを比べるの？子どもの誤答分析から、こんなことを考えていきます。ひょっとしたら問題が問題なのかもしれません。先生は楽しいですよ。いつも考えることがたくさんありますから。

#### IV-21 メール交信上位者（メールの多いトップ12名）と下位者（少ない12名）に分割したメール内容カテゴリー分析結果の整理と考察

ア. 送信文カテゴリー交信上位群と交信下位群

69 交信上位群は肯定的な評価が多く、交信下位群は受容や否定的な評価が多い。

イ. 受信文カテゴリー

70 交信上位群は主体者的な記述が多く、交信下位群は傍観者的記述が多い。

ウ. 共通

71 交信上位群は受信文（担当宛）の長さ（計）が長く、交信下位群は送信文（学生宛）の長さ（計）が長い。

72 交信上位群は受信（担当宛）回数が多く、交信下位群は送信（学生宛）回数が多い。

73 交信上位群は受信文（担当宛）の平均文長が長く、交信下位群は送信文（学生宛）の平均文長が長い。

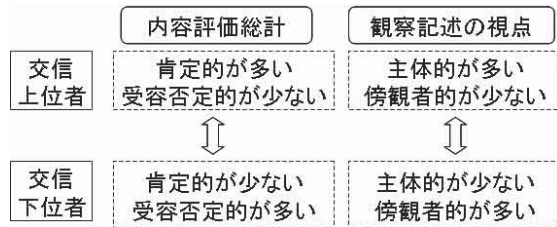


## IV-22 分析結果の整理と考察

### ア. 整理

#### ◇送信文内容評価及び受信文観察記述のより

図13 交信文カテゴリー相反する選択



アシストからの受信文やいろいろな情報を元に担当教官が送信文を作成する。その内容には当然受け取った情報を元にした論調がある。内容的評価はこの論調の集計である。

観察記述の視点は、アシストからの受信文の評価である。指示待ちで消極的な姿勢（傍観者的表現）で活動するのではなく、主体的・積極的な姿勢（主体的表現）で活動することを期待して設定したカテゴリーである。

#### ◇通信文の長さや通信回数より

図14 送受信文での相反する選択



通信文の長さや平均文長は内容の豊富さ、観察からの思考をより多く含む場合が多い。送受信回数もアシストからの受信回数が多いことは積極的な報告につながる。

### イ. 考察

**結果のまとめ：**内容評価総計では、交信上位者が肯定的評価がより多く受容や否定的評価がより少ない。交信下位者はこの逆である。観察記述の視点では、交信上位者が主体的記述がより多く傍観者的記述がより少ない。交信下位者はこの逆である。

通信文の長さや平均文長は、交信上位者では受信文が長く送信文が短い。交信下位者はこの逆である。

送受信回数は、交信上位者では受信文が多く送信文が少ない。交信下位者はこの逆である。

**総括：**内容的評価では、肯定的内容が好ましいのであるが、メール交信下位者にはネチケツ指導や観察力を高めること等改善点が多く、結果的には肯定的な評価が少なくなっている。

観察記述の視点では、「観察し考え書く」ことで活動の内容が主体的になると思うのだが、報告を拒否する

学生は別として、問題がないから報告しない学生へのアプローチを工夫したいと考えている。これは、通信文長計と平均文長、送受信回数でも同様に考えられる。肯定的評価ほめることの事例：アシストはいろいろ感じてくれる。苦しい返信書きの合間にこのようなメールを発見すると、本当にやる気が出てくる。

#### ◇2007年10月17日 17:22 Eより

今日は、子どもたちが私のことを、多くの場面で必要としてくれて嬉しかったです。子どもが芋を見つけた時は、見て欲しいといわんばかりに、[でっかいが見つけた]などと声をかけてくれました。子どもに[すごいねえ～よく頑張って掘ったね]などたくさん褒めることができたので、良かったです。

#### 2007年10月17日 21:29 Eさんへ 鯉風味の本多氏より

私のことを多くの場面で必要としてくれて嬉しかったです。それは、「でっかいが見つけた」などと声をかけてくれたことに対して「すごいねえ～よく頑張って掘ったね」などたくさん褒めることができたことです。これでいいです。信頼関係が確立していると言えますね。かれらのモチベーションの元ですよ。

#### ◇2007年10月17日 22:29 Eより

今思ったのですが、私が本多先生に褒められてとてもとっても嬉しいように、子どもたちだって嬉しいのですよね。私以上に。褒められるところをたくさん気付けるようになって、それを子どもたちに多く伝えたいと思います。自信が前よりも少しつきました。ありがとうございます。

#### 2007年10月18日 10:56 Eさんへ 鯉風味の本多氏より

私はおべんちゃらで褒めていません。だから気持ちが伝わるのでしょうか。「褒められるところをたくさん気付けるようになって、それを子どもたちに多く伝えたい」。考え方は大正解です。よかった、よかっただけでは気持ちは伝わりません。何処がどうよかったのか、きちんと理解して褒めてあげることが大切です。

そのために、しっかり見たことをメモしましょう。このノートは一生の財産になります。

**最少交信者とのメール交信事例：**この期間の交信の総てである。問題ないから必要なしとするFさんとはどう付き合えば良かったのだろうか。課題は尽きない。

#### 2007年9月1日 16:58 Fさんへ 鯉風味の本多氏より

アンケートによると、こどもたちとの人間関係で少し困っているとありました。心配になりメールしました。ちょっとしたことが原因で行き違いを生じることがあります。もし相談する気持ちがあれば事情を聞かせてください。意外と簡単に改善されるかもしれませんよ。メールを待っています。

#### 2007年9月21日 15:10 Fさんへ 鯉風味の本多氏より

以前上記のメールを送りましたが、その後の様子はいかがでしょうか。メールください。

◇2007年9月21日 15:26 Fより

9月になってから朝から学校に行けることができ、小学生とも打ち解けることができました！今は楽しく勉強させてもらってます。

2007年9月28日 19:53 全員送信（前出毎回報告要請）

2007年10月14日 0:30 Fさんへ 鯉風味の本多氏より

10月に入ってから連絡がないので心配です。学びのアシストの活動をしていますか。お知らせメール届いていませんか。このメールが届いたら返事をお願いします。

◇2007年10月14日 10:42 Fより

大丈夫です！配置校には水曜日の午後は毎回通っています。子ども達とも、先生方ともしっかりコミュニケーションが取れるようになって来ましたので楽しく活動させてもらっています。メールも届いています。

2007年10月14日 19:58 Fさんへ 鯉風味の本多氏より

よく読んでいないようなので、9月28日のメールを再送します。ということで、全く大丈夫ではありません。今回の報告はもう一度送り直しましょう。

## おわりに

大量のデーターを整理するにあたりデーター内容を概念図化する手法は、OSIA-IVで学んだ（本多1984）。今回は、カテゴリー分析以外のデータでも概念図化を試み、以下の結果が発見できた。

10月末「より積極的主体的指導が求められる清掃活動にM多群がM少群より多く取り組んだことにより、M多群が指導に困り、子どもたちとの関係は“M少群より悪く”なった。M多群はこの悩み解消のためメール活用が多くなった。1月末では「M多群の『清掃等環境整備』活動での問題は、メールをより活用したことで積極的・主体的に活動できるようになり、困難を克服してより活動に満足とを感じるまで改善できた。メール活用の効果がより高いということからもメールへの信頼感がうかがえる。M多群のこの主体的な活動姿勢が、相関関係で「授業の学習指導補助」を中核に「活動に満足」「教員志望」の連鎖を生んでいる。

勘ではなく、このことを断定できる資料がある。しかも勘や経験では分からなかったことも出てきている。メール活用相談は十分意義があるといえる結果であった。

一方でカテゴリー内容分析からは、常識的に考え得る内容は掌握できたが、新しい発見は出なかった。サブカテゴリーのあり方等、まだまだ改良することで新しい解釈が生まれると考える。たとえば、肯定的評価と否定的評価である。我々は、学びのアシストが子どもたちに信頼される活動をするために「子ども目線で観察し、考え、目標を定めて実践する」等、積極的な活動を求めている。したがって、メール相談のポイントは主体的に考

えている文章かの確認であると考えている。とすれば、厳しい追及が多くなってくる。心地よい言葉だけがモチベーションを上げるのではなく、向上しようとする目標をいかに自分のものとさせるかに力を入れていくべきと考え、以下のとおり新しい歩みを始めている。

新しい試み

① メール相談の効果を知らせる事前指導として、事例をもとにした講義の開催

② メール報告をしやすい環境作りとして、アシスト全員の活動の送受信を記入する電子黒板の設置

「大丈夫です。問題はありません。」と報告を拒むアシストが出現しないよう、活動前に指導することが必要であろう。携帯電話メールは面倒というアシストもいるであろう。自分だけの殻に閉じこもっては全体から取り残されてしまうであろう。このような事態への予防措置としての新しい試みである。以下のメール返信文の書き出しの厳しさの中にも我々の願いが込められている。

新しい歩みを思考したメール事例：ムード的に肯定的評価するのではなく、返信文のように観察の視点を示し事前、事後共に考えさせることをめざしている。

◇2008年7月3日 16:13 Gより

今回は給食の時間から参加し、昼休みも子どもたちを連れてグラウンドへ行き、鬼ごっこなどをして遊びました。自分も子どもたちも前回と比べて緊張がほぐれ、たくさん話もできました。次回からは徐々にみんなの名前も覚えていきたいと思っています。

2008年7月4日 17:06 Gさんへ 本多より

給食の時間は？その後のお勉強は？それと感想を書いてください。自分は緊張していても、子どもたちは大勢です。自然に振る舞っていますよ。名前を覚えるのは次回からですか。がんばってください。集合写真をお借りして拡大コピー（名前記入）やデジカメで撮影したりして活用すると早く覚えることができます。個人情報保護に注意を。

## 文献

Hough, J. B. & Duncan, J. K. : 1980 Categories for the Study of Instruction- OSIA Vol.1, The Ohio State University

本多信昭：1984, 比較実験授業とカテゴリー分析 P117-225, 教育開発研究所

本多信昭：1986, 道徳授業の評価とカテゴリー分析（互見授業による指導法改善をめざして）

指導と評価 Vol.32No.33 日本教育評価研究会 P49-52

（2008年9月1日受付）

（2008年11月5日受理）